

令和6年

第6回教育委員会会議

議案第13号

秋田県教育委員会

議案第十三号

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則案

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則

県費負担教職員の定数を定める規則（昭和三十九年秋田県教育委員会規則第七号）の一部を次のように改正する。
別表を次のように改める。

別表

市町村名	学校種別	学校種別	数				
			校長・教員	養護教員	栄養教諭及び 学校栄養職員	事務職員	計
鹿角市	小学校		89 人	6 人	1 人	7 人	103 人
	中学校		66 人	4 人	2 人	4 人	76 人
小坂町	小学校		13 人	1 人	1 人	1 人	16 人
	中学校		11 人	1 人	0 人	1 人	13 人
大館市	小学校		218 人	17 人	4 人	18 人	257 人
	中学校		133 人	9 人	3 人	9 人	154 人
北秋田市	小学校		86 人	6 人	2 人	6 人	100 人
	中学校		51 人	3 人	1 人	5 人	60 人
	義務 教育 学校	前期	8 人	1 人	0 人	1 人	10 人
		後期	12 人	0 人	0 人	0 人	12 人
上小阿仁村	小学校		10 人	1 人	1 人	1 人	13 人
	中学校		10 人	0 人	0 人	0 人	10 人
能代市	小学校		120 人	8 人	3 人	7 人	138 人
	中学校		95 人	6 人	1 人	7 人	109 人
藤里町	義務 教育 学校	前期	13 人	1 人	1 人	1 人	16 人
		後期	12 人	0 人	0 人	0 人	12 人
三種町	小学校		59 人	5 人	1 人	5 人	70 人
	中学校		36 人	3 人	0 人	3 人	42 人
八峰町	小学校		25 人	2 人	0 人	2 人	29 人
	中学校		11 人	1 人	1 人	1 人	14 人
秋田市	小学校		743 人	45 人	16 人	42 人	846 人
	中学校		458 人	17 人	10 人	19 人	504 人
男鹿市	小学校		74 人	6 人	1 人	6 人	87 人
	中学校		37 人	2 人	2 人	2 人	43 人
潟上市	小学校		94 人	6 人	2 人	6 人	108 人
	中学校		58 人	3 人	1 人	3 人	65 人
五城目町	小学校		22 人	1 人	1 人	1 人	25 人
	中学校		15 人	1 人	0 人	1 人	17 人
八郎潟町	小学校		11 人	1 人	1 人	2 人	15 人
	中学校		12 人	0 人	0 人	0 人	12 人
井川町	義務 教育 学校	前期	14 人	1 人	1 人	1 人	17 人
		後期	13 人	0 人	0 人	0 人	13 人
大潟村	小学校		13 人	1 人	1 人	1 人	16 人
	中学校		11 人	1 人	0 人	1 人	13 人
由利本荘市	小学校		197 人	14 人	6 人	14 人	231 人
	中学校		161 人	10 人	2 人	10 人	183 人
にかほ市	小学校		62 人	4 人	3 人	4 人	73 人
	中学校		49 人	3 人	1 人	3 人	56 人
大仙市	小学校		259 人	21 人	3 人	21 人	304 人
	中学校		167 人	11 人	3 人	13 人	194 人
仙北市	小学校		75 人	6 人	2 人	6 人	89 人
	中学校		67 人	5 人	0 人	5 人	77 人
美郷町	小学校		52 人	3 人	2 人	3 人	60 人
	中学校		28 人	1 人	0 人	1 人	30 人
横手市	小学校		241 人	14 人	3 人	14 人	272 人
	中学校		145 人	8 人	2 人	7 人	162 人
湯沢市	小学校		107 人	6 人	2 人	6 人	121 人
	中学校		96 人	6 人	1 人	7 人	110 人
羽後町	小学校		51 人	4 人	1 人	4 人	60 人
	中学校		27 人	1 人	0 人	1 人	29 人
東成瀬村	小学校		11 人	1 人	0 人	1 人	13 人
	中学校		11 人	1 人	1 人	1 人	14 人

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

令和六年四月十一日提出

秋田県教育委員会教育長 安 田 浩 幸

理 由

令和六年度市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の教職員配置基準及び少人数学習推進事業配置基準に基づく定数配置により各市町村の定数を定める必要がある。これが、この規則案を提出する理由である。

県費負担教職員の定数を定める規則の一部を改正する規則案要綱

1 改正理由

令和6年度市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の教職員配置基準及び少人数学習推進事業配置基準に基づく定数配置により各市町村の定数を定める必要がある。

2 改正内容

市町村立小学校、中学校及び義務教育学校の県費負担教職員の定数を改めることとする。（別表関係）

3 施行期日

この規則は、公布の日から施行する。

令和6年

第6回教育委員会会議

議案第14号

秋田県教育委員会

議案第 14 号

令和 6 年度秋田県教科用図書選定審議会委員の任命について

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律（昭和 38 年法律第 182 号）第 11 条、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令（昭和 39 年政令第 14 号）第 9 条、秋田県教科用図書選定審議会委員の定数を定める条例（昭和 39 年県条例第 59 号）の規定に基づき、次の者を令和 6 年度秋田県教科用図書選定審議会の委員に任命する。

	氏 名	分 野	任 期
1	片 岡 美由貴	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
2	三 戸 智 佳	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
3	平 塚 定	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
4	山 崎 悟	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
5	田 中 武 晴	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
6	佐 藤 詩 輝	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
7	伊 藤 淳	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
8	阿 部 純 一	学校長等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
9	須 田 喬	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
10	茂 内 公 貴	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
11	笹 刈 美 穂	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
12	鈴 木 公 平	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
13	住 吉 聡 子	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
14	赤 川 美和子	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
15	大 阪 瑞 穂	教育委員会関係者	令和6年4月11日～令和6年8月31日
16	松 田 聡	学識経験者等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
17	藤 井 慶 博	学識経験者等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
18	上 野 節 子	学識経験者等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
19	桑 原 智 子	学識経験者等	令和6年4月11日～令和6年8月31日
20	中 島 奈津子	学識経験者等	令和6年4月11日～令和6年8月31日

令和 6 年 4 月 11 日 提出

秋田県教育委員会教育長 安 田 浩 幸

理 由

令和 6 年度秋田県教科用図書選定審議会委員の任命について、県教育委員会の議決を得る必要がある。これが、議案を提出する理由である。

議案第 14 号 参考資料

令和 6 年度秋田県教科用図書選定審議会委員名簿
(任期：令和 6 年 4 月 11 日から令和 6 年 8 月 31 日まで)

(令和 6 年 4 月 1 日現在)

以下、個人情報のため表示しません。

令和6年度秋田県教科用図書選定審議会委員候補者略歴

以下、個人情報のため表示しません。

令和 6 年

第 6 回 教 育 委 員 会 会 議

報告事項

- (1) 令和 7 年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針
- (2) 令和 7 年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針
- (4) 令和 6 年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について
- (5) 令和 6 年 3 月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について

秋田県教育委員会

報告事項

令和7年度秋田県立中学校入学者選抜適性検査問題等作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針について

- (1) 適性検査問題については、小学校学習指導要領（平成29年文部科学省告示第63号）に基づくものとする。
- (2) 適性検査問題等は、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を把握できるように出題する。
- (3) 適性検査問題等の内容は、適性検査と作文とする。
適性検査は、放送による検査を含む、国語、社会、算数、理科、外国語（英語）の教科横断的な内容とし、検査時間は50分とする。
作文は、自分の考えや意見等を書くものとし、検査時間は45分とする。

2 適性検査問題等の配慮事項について

適性検査と作文において、次の事項についての力がみられるように配慮する。

(1) 適性検査

- ア 聞いたり、読んだりしたことから、必要な情報を取り出し、その意味を理解する力
- イ 情報を自分の経験や教科で学んだことに関連付けて捉え、思考・判断する力
- ウ 目的に応じて、自分の考えや意見を表現する力

(2) 作文

自分の経験や見聞を基に、目的や意図に応じて、文章の構成や表現を工夫して書く力

令和 7 年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針

秋田県教育委員会

1 基本方針

中学校学習指導要領（平成 29 年文部科学省告示第 64 号）に基づくものとする。

2 実施教科、検査時間及び出題内容

ア 学力検査の実施教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の 5 教科とし、各教科の配点は、それぞれ 100 点とする。

イ 各教科の検査時間は、国語、数学、外国語（英語）は各 60 分、社会、理科は各 50 分とする。なお、国語の「聞くこと」に関する検査及び英語のリスニングテストは、当該教科の検査開始と同時に 10 分間程度行う。また、数学では学校による問題選択制を一部取り入れる。

ウ 問題は、各教科の目標・内容に即し、基礎的・基本的な事項及びそれらを活用して課題を解決することについて、学習の成果が多面的にしかもきめ細かに把握できるように出題する。

3 各教科の配慮事項

各教科とも、次の各領域及び事項についての学力がみられるように配慮する。

(1) 国 語

ア 話の構成や展開、話し手の意図などを考えながら聞く力

イ 目的や意図に応じ、自分の気持ちや考えを効果的に伝えるために、ある程度まとまった文章を書く力

ウ 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら、内容や要旨を的確に読み取る力

エ 各領域の学習に関連する、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（漢字については、常用漢字を読む力と学年別漢字配当表に示されている漢字を書く力）

(2) 社 会

ア 日本や世界の諸地域などの地理的事象について、自然及び社会的条件と関連させながら理解し、考察する力

イ 我が国の歴史的事象について、時代の動きや世界の歴史などと関連させながら理解し、考察する力

ウ 現代社会、経済と国民の生活、我が国の政治、国際社会の諸課題などに関する事項について理解し、考察する力

エ 地図や地球儀、統計、年表などの諸資料を活用して、社会的事象を様々な角度から判断し、表現する力

(3) 数 学

ア 数や式を的確に処理する力及び基本的な方程式や不等式を用いる力

イ 基本的な図形の性質についての理解及び図形について見通しをもって論理的に考察し表現する力

ウ 具体的な事象について関数関係を見だし表現し考察する力

エ 不確定な事象について確率を用いて考察する力及び資料や母集団の傾向を読み取る力

オ 事象を数学的な見方や考え方に基づいて数理的に考察し表現する力

(4) 理 科

ア 自然の事物・現象を科学的に探究する過程を通して、その仕組みや働きを多面的、総合的に考察する力

イ 観察、実験で得られた事象や結果を分析して解釈し、表現する力

ウ 観察、実験の基本操作及び観察、実験の結果を的確に記録、整理するなどの技能に関する力

エ 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、活用する力

(5) 外国語（英語）

ア 初歩的な英語を聞いて、その内容を聞き取り、適切に応答する力

イ 場面に応じて適切な英語を用い、自分の考えなどを表現する力

ウ まとまりのある英語の文章を読んで、その概要や要点、書き手の意向などを理解する力

令和6年度秋田県公立学校教諭等採用候補者選考試験の結果について

令和6年4月11日（木）

高 校 教 育 課

令和6年度 教諭等新採用状況

採 用 校 種	前々年度 前年度 採用延期者	R 6 合格者	R 6 辞退者 採用延期者	R 6 採用者	備 考
小 学 校 教 諭	1	93	9	85	辞退5名 大学院進学、在籍中による採用延期4名
中 学 校 教 諭	0	64	1	63	辞退1名
高 等 学 校 教 諭	0	26	2	24	辞退1名 大学院進学による採用延期1名 社会人等特別選考による採用者1名
特 別 支 援 学 校 教 諭	0	24	0	24	
養 護 教 諭	0	8	0	8	
教 諭 計	1	215	12	204	
高 実 等 学 校 教 諭 助 手	0	1	0	1	
特 別 支 援 学 校 教 諭 助 手	0	0	0	0	
特 別 支 援 学 校 教 諭 指 導 員	0	1	0	1	
実 習 助 手 計	0	2	0	2	
合 計	1	217	12	206	

令和6年3月特別支援学校高等部卒業者の就職決定状況について

令和6年3月31日現在
特別支援教育課

1 特別支援学校高等部卒業者の進路決定状況 単位:人

卒業者数	進学等	就職	福祉施設等利用	無職等	備 考
185	4	70	105	6	・福祉施設等利用の内訳: 障害児入所施設1、生活介護42、療養介護1、生活訓練3、 就労移行支援3、就労継続支援雇用型(A型)3、 就労継続支援非雇用型(B型)49、地域活動支援センター1、福祉利用2 ・無職等の内訳:静養1、その他5
割合	2.2%	37.8%	56.8%	3.2%	

2 就職者の決定状況 単位:人

学校・障害種別	学校数 (含分校・附属)	卒業者数	就職希望者数	決定者数	備 考
視覚支援学校(視覚障害)	1	8	4	4	
聴覚支援学校(聴覚障害)	1	5	4	4	
秋田きらり支援学校(肢体不自由)	1	6	0	0	
知的障害校(9校3分校) ※附属特別支援学校を含む	12	166	63	62	
計	15	185	71	70	就職決定率98.6%
卒業者数に占める割合			38.4%	37.8%	

3 就職決定先の業種等

業 種 等	人数	割合
製造業(自動車、部品組み立て、運搬)	19	27.1%
卸売業・小売業(飲食品小売、販売)	18	25.7%
医療・福祉(あんま・マッサージ、介護)	11	15.7%
宿泊業・飲食サービス業(清掃、調理補助)	8	11.4%
生活関連サービス業(清掃、リネン)	7	10.0%
公務(役場、学校事務、ハローワーク、図書館)	5	7.1%
運送(車両整備)	1	1.4%
建設(部品製造)	1	1.4%
計	70	

4 特別支援学校高等部卒業生進路先状況の年度別推移 単位:人

年度	卒業人数	進学	訓練機関	就職	施設等	無業・在宅	就職者の割合	知的障害校	
								就職者数	就職者割合
H22	179	9	2	41	107	20	22.9%	36	24.5%
H23	204	3	3	51	130	17	25.0%	45	25.7%
H24	198	5	0	58	117	18	29.3%	54	32.5%
H25	197	3	0	75	105	14	38.1%	68	38.9%
H26	199	4	0	83	100	12	41.7%	74	44.0%
H27	198	9	0	70	108	11	35.4%	66	39.3%
H28	223	1	0	70	146	6	31.4%	67	33.2%
H29	201	2	0	76	120	3	37.8%	65	37.8%
H30	196	0	0	74	118	4	37.8%	68	39.3%
R1	217	1	0	77	136	3	35.5%	74	37.4%
R2	199	4	2	74	109	10	37.2%	70	39.1%
R3	203	2	0	80	111	10	39.4%	76	41.5%
R4	186	5	0	57	117	7	30.6%	49	30.6%
R5	185	4	0	70	105	6	37.8%	62	37.3%

令和 6 年

第 6 回 教 育 委 員 会 会 議

報告事項（3）

令和 6 年度秋田県公立高等学校入学者選抜学力検査の抽出調査結果

秋田県教育委員会

令和6年度秋田県公立高等学校入学者選抜
学力検査の抽出調査結果

1 検査教科の平均点（受検者）

教 科	令和6年度	令和5年度	前年度比較
国 語	67.8	63.2	+4.6
社 会	59.3	55.7	+3.6
数 学	48.7	48.1	+0.6
理 科	51.9	59.3	-7.4
英 語	49.9	60.1	-10.2
合 計 点	277.6	286.4	-8.8
100点換算点	55.5	57.3	-1.8

1次募集（特色選抜及び一般選抜）受検者から抽出。

2 過去3年間の平均点の推移（受検者）

教科 年度	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合計点	100点換算点
令和6年度	67.8	59.3	48.7	51.9	49.9	277.6	55.5
令和5年度	63.2	55.7	48.1	59.3	60.1	286.4	57.3
令和4年度	64.9	56.5	55.5	49.1	54.5	280.5	56.1

令和5年度及び令和6年度は、1次募集（特色選抜及び一般選抜）受検者から抽出。
令和4年度は、一般選抜受検者から抽出。

国語

1 小問別の完全正答率と得点率

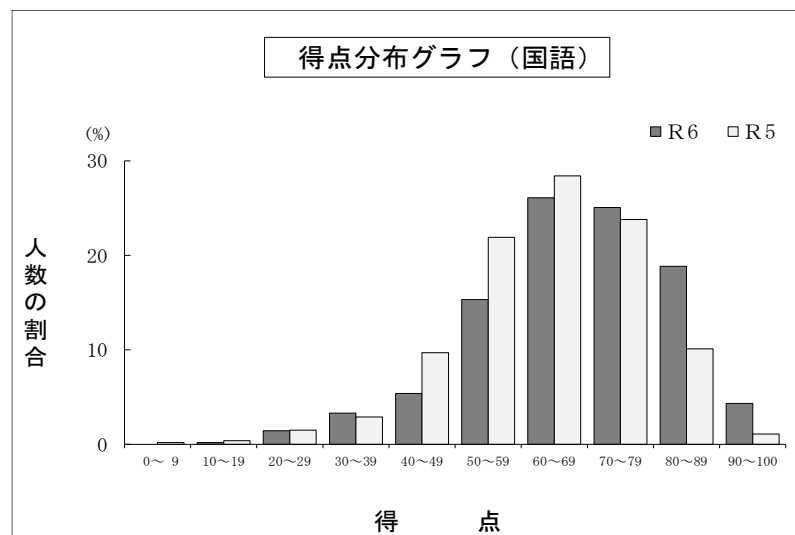
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)
一	1	話合いの内容を正確に聞き取る	81.8	87.5
	2	キャッチコピーを選ぶ	95.0	95.0
	3	話合いの内容を正確に聞き取る	52.4	64.5
	4	話合いの様子から、進行の仕方を考える	89.2	89.2
二	1	① 配当漢字を書く	88.8	88.8
		② 常用漢字を読む	98.1	98.1
		③ 配当漢字を書く	71.2	71.2
		④ 常用漢字を読む	96.3	96.3
	2	ことわざの意味を捉える	96.1	96.1
	3	形容動詞の活用形を書く	47.2	47.5
	4	同じ品詞を選ぶ	70.6	70.6
三	1	a 本文の内容を捉える	98.8	99.3
		b 本文の内容を捉える	97.5	97.9
	2	本文の内容を捉える	62.5	62.5
	3	(1) 本文の内容を捉える	81.4	82.7
		(2) 本文の内容をまとめる	15.1	31.5
	4	段落の関係を捉える	83.6	83.9
	5	(1) 表現の工夫を捉える	93.0	93.0
		(2) 本文の内容をまとめる	12.6	50.2
四	1	本文の内容を捉える	94.6	94.6
	2	本文の内容を捉える	94.0	94.0
	3	叙述から登場人物の心情を捉える	7.0	20.6
	4	a 本文の内容を捉える	81.0	83.3
		b 本文の内容を捉える	84.3	84.8
		c 本文の内容をまとめる	41.4	48.7
		d 叙述から登場人物の心情を捉える	8.7	25.5
五	1	① 歴史的仮名遣いの読みを書く	95.7	96.0
		② 歴史的仮名遣いの読みを書く	96.7	96.8
	2	a 本文の内容をまとめる	69.8	71.7
		b 本文の内容をまとめる	75.2	76.0
		c 本文の内容をまとめる	73.7	76.8
	3	(1) 本文の内容を捉える	72.7	72.9
		(2) 本文の内容を捉える	28.0	28.0
		(3) 本文の内容をまとめる	34.4	42.4
六		自身の体験を踏まえて、自分の考えを分かりやすく書く		61.2

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（国語）

年度 段階	令和6年度	令和5年度
90～100	4.3	1.1
80～ 89	18.8	10.1
70～ 79	25.1	23.8
60～ 69	26.1	28.4
50～ 59	15.4	21.9
40～ 49	5.4	9.7
30～ 39	3.3	2.9
20～ 29	1.4	1.5
10～ 19	0.2	0.4
0～ 9	0.0	0.2
計	100.0	100.0
平均点	67.8	63.2
標準偏差	14.5	14.0



3 現状の分析

平均点は67.8点と昨年を4.6点上回った。得点分布では、70点以上の層が増加しており、普段の学習の成果が表れた結果と言える。本文の内容を的確に読み取り、自分の言葉で適切に表現できたかどうか得点の差となった。

- ① 「聞くこと」に関する検査では、発言の要点を整理したり、進行の仕方の特徴を捉えたりしながら、聞き取った内容を記述することができていた。
- ② 言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字の読み書きやことわざの意味を捉えることはできていたが、形容動詞の活用について理解することに課題が見られる。
- ③ 説明的な文章では、部分的な内容を読み取ることはできていたが、筆者の主張の根拠を読み取り、条件に応じて再構築してまとめることに課題が見られる。
- ④ 文学的な文章では、登場人物の人物像を捉えることはできていたが、言動や情景描写等を手掛かりに登場人物の心情を想像し、自分の言葉で記述することに課題が見られる。
- ⑤ 古典では、文章の大まかな内容を理解することはできていたが、二つの文章を比較し、ものの見方や考え方の相違点や共通点を捉えることに課題が見られる。
- ⑥ 作文では、自らの体験を取り上げて具体的に書くことはできていたが、言葉の使い方に対する自分の考えを十分に表現できていないものも見られた。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉え、文章の内容についての理解を深める学習の充実を図る。
- ・文章についての理解を深めるために、叙述を根拠にして、読み取った内容や感想を交流したり、自分の言葉でまとめたりする学習の充実を図る。
- ・古典に親しむために、現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、新たな気づきを得たり、興味・関心を高めたりする学習の充実を図る。
- ・言語感覚を磨き、語彙を豊かにするための言語活動の充実を図る。

- ① 主として説明的な文章において、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えてながら内容を把握し、文章全体を俯瞰して筆者の主張を読み取る活動の充実を図りたい。
- ② 叙述に着目し、登場人物の言動や情景描写等から暗示的に表現された心情を読み取り、自分の解釈をまとめる活動や互いの解釈を交流し比較する活動を通して、文章を深く読み味わう活動の充実を図りたい。
- ③ 古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を読み取る活動の充実を図りたい。
- ④ 社会生活で使う語彙を豊かにするために、言語事項に関する知識を広げ、話や文章の中で適切に言葉を使うことができるよう、言語活動の充実を図りたい。

社 会

1 小問別の完全正答率と得点率

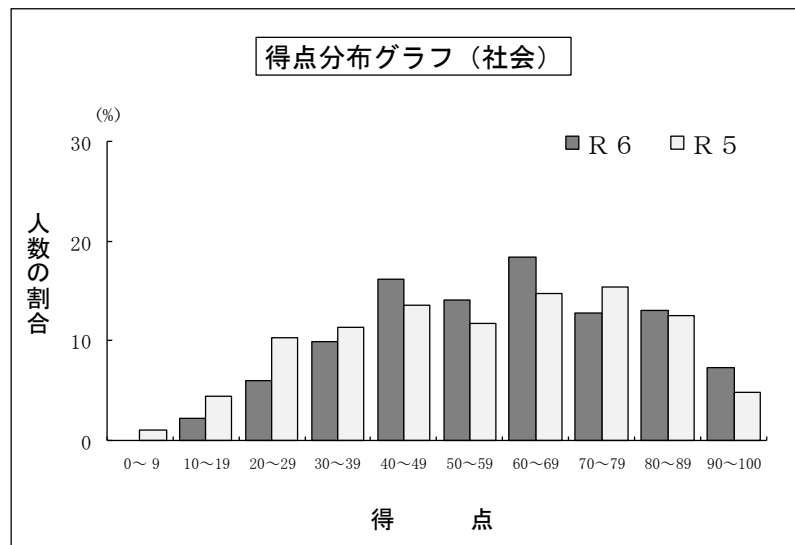
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)
1	(1)	地図に表されている大陸の名称を答える	92.3	92.3
	(2)	大陸が位置する範囲を模式図から選択する	73.1	73.1
	(3)	直線的な国境線が見られる背景を説明する	39.1	41.6
	(4)	自然環境に適応した伝統的な住居の特色を選択する	84.3	84.3
	(5)	お 表を基に農業の地域的特色を答える	50.1	53.6
		か 表を基に農業の地域的特色を答える	25.9	26.2
2	(1)	九州地方で最も人口が多い県の県庁所在地名を答える	50.3	51.3
	(2)	図から降水量の特色を読み取り該当する都市を選択する	43.1	43.1
	(3)	火山と発電の関連について答える	90.9	91.5
	(4)	① リアス海岸の特色について説明する	56.5	58.7
		② 地形によって被害が大きくなりやすい自然災害を答える	82.0	83.5
	(5)	イ 各県の資料を基に当てはまる県名を答える	48.9	49.0
		エ 各県の資料を基に当てはまる県名を答える	51.6	51.9
3	(1)	古代において使用された稲を収穫する道具名を答える	27.1	28.4
	(2)	冠位十二階の制度において求めた人材を説明する	72.0	78.3
	(3)	律令国家の支配拡大について述べた文を選択する	64.8	64.8
	(4)	年表を基に北条政子の言葉が出された時期を選択する	44.9	44.9
	(5)	資料を基に農民が土一揆を起こした理由を説明する	30.8	33.1
	(6)	応仁の乱後の支配の変化に関する事象を選択する	73.5	73.5
	(7)	わが国に鉄砲が伝来したころのできごとを選択する	62.5	62.5
	(8)	地図から天正遣欧使節が派遣された場所を選択する	72.3	72.3
	(9)	図の作品が制作されたところに活躍した人物名を選択する	59.4	59.4
	(10)	図を基に近世における米の収穫高増加の理由を説明する	44.3	57.7
	(11)	写真を基に岩倉使節団に派遣された人物名を答える	46.6	49.1
	(12)	世界恐慌後の軍部の台頭について述べた文を選択する	55.3	55.3
	(13)	戦後国際社会の復帰に至るまでの過程を順に並べ替える	32.1	32.1
4	(1)	日本国憲法第13条に記された語を答える	31.7	31.7
	(2)	図を基に民事裁判の説明として正しいものを選択する	56.9	56.9
	(3)	図を基に介護保険制度が導入された背景を説明する	76.8	80.5
	(4)	消費者問題の解決に関わる法律や制度を選択する	76.6	76.6
	(5)	① 需要曲線と供給曲線の交点が示す価格の名称を答える	61.5	65.0
		② 図を基に売れ残る量を示すものを選択する	28.0	28.0
	(6)	日本銀行の役割を選択する	68.7	68.7
	(7)	直接税かつ国税に当たる税を選択する	71.6	71.6
	(8)	図を基に消費税の特徴について説明する	35.2	37.6
	(9)	WHOの活動として正しいものを選択する	75.4	75.4
	(10)	① 表を基に一人当たりのGDPと識字率の関係を説明する	75.6	78.8
		② 資料を基に秋田県が目指している社会を選択する	95.9	95.9

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（社会）

年度 段階	令和6年度	令和5年度
90～100	7.3	4.9
80～89	13.0	12.5
70～79	12.8	15.4
60～69	18.4	14.8
50～59	14.1	11.7
40～49	16.2	13.6
30～39	9.9	11.3
20～29	6.0	10.3
10～19	2.3	4.5
0～9	0.0	1.0
計	100.0	100.0
平均点	59.3	55.7
標準偏差	20.7	22.4



3 現状の分析

前年度に比べ、30点未満の層が減少し、平均点は3.6点上昇した。基礎的・基本的な知識及び技能の習得に一定の成果は見られたが、資料から必要な情報を読み取り、適切に判断したり、的確に表現したりすることに課題がある。

- ① 大問1(5)は、世界における農業の地域的特色を資料から読み取り、表現する問題である（完全正答率 お50.1%、か25.9%）。資料を的確に読み取った上で、資料に示されている語句を用い、地域的特色を表現することに課題がある。
- ② 大問2(5)は、資料から各県の特徴を読み取り、習得した知識などと関連付け、選択する問題である（完全正答率 イ48.9%、エ51.6%）。各県の特徴について、多面的・多角的に考察することに課題がある。
- ③ 大問3(10)は、近世において米の収穫高が増加した理由について、グラフや絵を基に説明する問題である（完全正答率 44.3%）。複数の資料から読み取った情報を、既習内容と結び付けて考察し、適切に表現することに課題がある。
- ④ 大問4(5)②は、需要・供給と価格の関係の図から、売れ残る量を示すものを選択する問題である（完全正答率 28.0%）。社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について日常の社会生活と関連付けながら考察し、資料から必要な情報を的確に読み取って判断することに課題がある。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・単元など内容や時間のまとまりを見通した「問い」を設定し、社会的な見方・考え方を働かせて考察していく学習活動を展開する。
・資料から必要な情報を読み取り、それらを基に、社会的事象の意味や意義について比較や関連付けをしながら考察し、適切に表現する学習活動を展開する。

- ① 地理的分野では、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布などに着目して捉え、考察する力を養うことが大切である。地球儀や地図を積極的に活用するとともに、資料から読み取った情報や習得した知識及び技能を比較したり関連付けたりして、地理的事象の特色や意味について多面的・多角的に考察し、表現する学習の充実を図る必要がある。
- ② 歴史的分野では、各時代を大観して、時代ごとの政治や経済、社会の特色について多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことが大切である。歴史的事象を時期、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して捉え、事象の意味や意義、事象間の関連、各時代の特色について論理的に説明したり、表現したりする学習の充実を図る必要がある。
- ③ 公民的分野では、現代社会の見方・考え方を働かせ、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して社会的事象の特色や意味などを多面的・多角的に考察し、表現する力を養うことが大切である。課題の解決に向けて、習得した知識や事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、論拠を基に自分の意見を表現したりする学習の充実を図る必要がある。

数 学

1 小問別の完全正答率と得点率

大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)	選択率 (%)
				0 10 20 30 40 50 60 70 80 90 100	
1	(1)	正負の数を計算する	93.8	93.8	30.2
	(2)	1 次式の計算を計算する	84.3	84.3	59.2
	(3)	自然数を素因数分解する	79.6	79.6	20.3
	(4)	式の値を求める	56.6	56.6	56.7
	(5)	根号を含む式を計算する	69.6	69.6	78.3
	(6)	1 次方程式を解く	75.0	75.0	22.4
	(7)	連立方程式を解く	84.9	85.2	69.8
	(8)	2 次方程式を解く	69.8	70.0	72.0
	(9)	第 1 四分位数、第 3 四分位数を求める	57.5	62.8	66.3
	(10)	条件を満たす自然数の値を求める	6.8	6.8	30.2
	(11)	角の大きさを求める	87.3	87.3	63.8
	(12)	角の大きさを求める	40.6	40.6	77.0
	(13)	線分の長さを求める	13.4	13.4	63.4
	(14)	回転体の体積を求める	21.8	21.8	78.9
	(15)	三角錐の体積を求める	0.0	0.0	11.6
2	(1)	ア 方程式を立式する	52.0	52.0	
		イ 方程式を立式する	82.4	82.4	
	(2)	① 2 乗に比例する関数の変域を求める	28.4	41.7	
		② 座標平面上にある三角形の面積を求める	50.7	50.7	
	(3)	① 条件に適する度数を求める	18.8	18.8	
		② 最頻値が求められる理由を説明する	30.8	35.6	
	(4)	条件を満たす作図をする	35.6	36.3	
3	(1)	① y 座標を求める	73.7	74.0	
		② 線分 PQ の長さが表すことを選択する	79.5	79.5	
	(2)	㉠ 直線の式を求める	56.5	56.5	
		㉡ 交点の x 座標を求める	53.2	53.2	
		㉢ 交点の y 座標を求める	48.4	48.4	
		㉣ 条件に適する値を求める	38.5	38.5	
	(3)	選択した考え方を用いて、根拠を基に説明する	18.4	23.4	
4	(1)	① 条件を満たす数を求める	86.7	86.7	
		② 条件を満たす数を文字を用いた式で表す	18.4	18.6	
	(2)	① 条件を満たす確率を求める	74.5	74.5	
		② 条件を満たす確率を求める	52.0	52.1	
5	I	(1)	三角形の相似を証明する	49.8	78.3
		① 線分の長さを求める	32.0	32.0	
		② 図形の面積を求める	0.5	0.5	
	II	(1)	三角形の相似を証明する	92.4	21.7
		① 角の大きさを文字を用いた式で表す	54.3	57.7	
		② 図形の面積の比を求める	1.0	1.0	

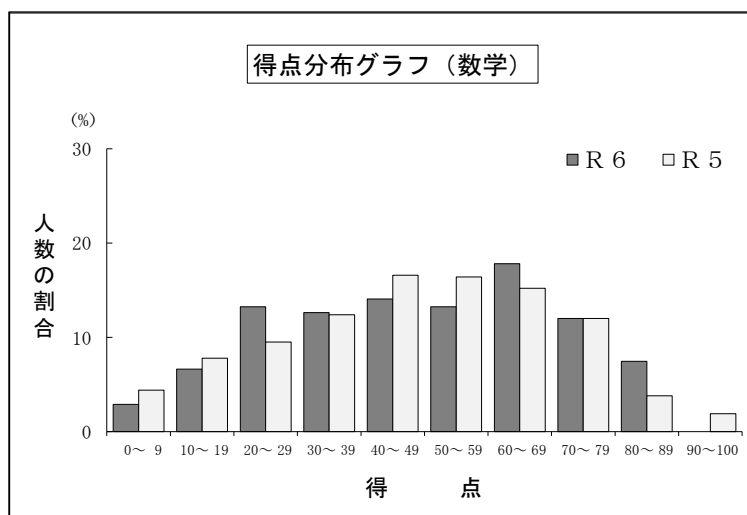
※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

※大問 1、5 は学校選択の問題。選択率は、その問題を解くように指示された受検者の割合。

2 得点分布

得点分布表（数学）

年度 段階	令和6年度	令和5年度
90～100	0.0	1.9
80～ 89	7.5	3.8
70～ 79	12.0	12.0
60～ 69	17.8	15.2
50～ 59	13.3	16.4
40～ 49	14.1	16.6
30～ 39	12.6	12.4
20～ 29	13.3	9.5
10～ 19	6.6	7.8
0～ 9	2.9	4.4
計	100.0	100.0
平均点	48.7	48.1
標準偏差	21.3	21.4



3 現状の分析

- ① 大問1では、(1)、(2)、(3)、(6)、(7)、(8)、(11)で得点率が70%以上であり、基礎的・基本的な知識及び技能に関わる学習の成果が見られる。(12)円周角の性質を利用して角の大きさを求めること、(13)相似の性質を利用して線分の長さを求めること、(14)おうぎ形と三角形を合わせた図形の回転体の体積を求めることなど、複数の知識及び技能を活用して解決することについて課題が見られる。
- ② 大問2(1)アの得点率は52.0%であり、問題の中の数量やその関係から2通りに表される数量を見だし、文字を用いた式に表すことに課題が見られる。(2)①の2乗に比例する関数の変域を求めることの得点率は41.7%であり、2乗に比例する関数の知識及び技能の定着に課題が見られる。
- ③ 大問3(3)では、比例や1次関数とみなす考え方を選択し、根拠を基に説明することの得点率は23.4%で、完全正答率が18.4%であった。また、選択した解答については、比例とみなして解答した割合は32.5%、1次関数とみなして解答した割合は22.0%であった。表、式、グラフを相互に関連付けて考察し、根拠を基に説明することについて課題が見られる。
- ④ 大問4(2)では、得点率が①74.5%、②52.1%であり、文字を用いた式で示された確率を求めることについて学習の成果が見られる。
- ⑤ 大問5は、三角形の相似の証明を含む図形の問題であった。図形の基本的な性質や定理などを活用して、相似な三角形を基に面積比を考察することについて課題が見られる。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】 次の3点を重視し、数学的活動を通してバランスよく指導する。

- ・数量や図形などについての理解を深めるとともに、数学的な技能の習熟を図る。
- ・数学的な思考力、判断力、表現力等を高める。
- ・数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考える態度を養う。

- ① 統合的・発展的に考察する題材を用いた学習活動を充実させるために、学習内容の系統性を踏まえた単元計画や授業構想を工夫する必要がある。
- ② 「数と式」の領域では、用語の正しい理解と、計算することや方程式を解くことなどの数学的な技能について、一層の習熟を図りたい。また、大問2のように、問題の中の数量やその関係を見だし、文字を用いた式に表すために、具体的な場面を想起して式の意味を考える活動を重視したい。
- ③ 「図形」の領域では、大問1(12)、(13)、(14)のように、複数の図形の性質を組み合わせで解決する問題を取り上げ、問題解決の過程を考察する学習活動の充実を図りたい。
- ④ 「関数」の領域では、大問3のように、1つの事象において、変数の設定を変えることで、比例や1次関数とみなして考察するなど、既習の知識及び技能を関連付けながら、統合的・発展的に考察する活動の充実を図りたい。
- ⑤ 「データの活用」の領域では、大問2(3)のように、度数、相対度数、累積相対度数の関係を捉え、階級における度数の妥当性について根拠を明らかにし、数学的な表現を用いて説明し合う活動の充実を図りたい。

理 科

1 小問別の完全正答率と得点率

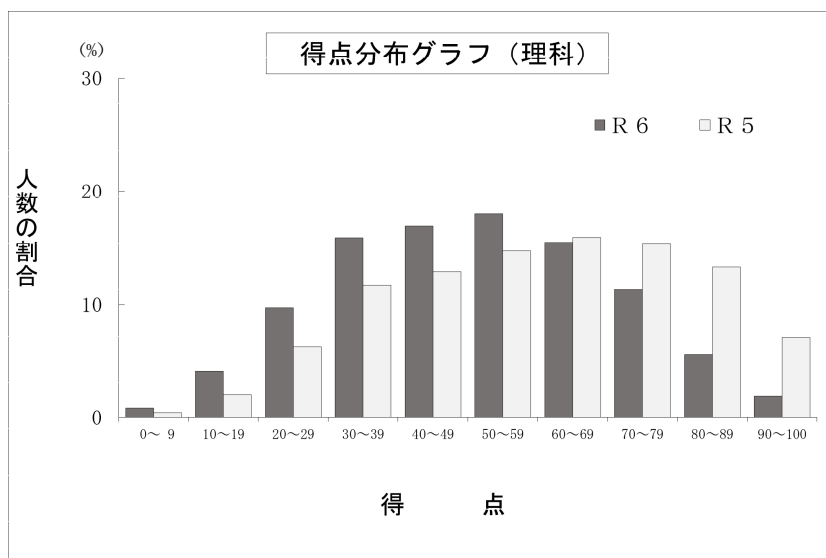
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1	(1)	脊椎動物に共通して見られる特徴について説明する	82.6	83.0										
	(2)	節足動物と軟体動物の形態について正しいものを選択する	90.7	91.4										
	(3)	爬虫類に見られる乾燥に適した形態について説明する	60.0	61.7										
	(4)	特徴を基に未知の脊椎動物を分類する	38.3	38.3										
	(5)	① 両生類の生活する場所が幼生と成体では変化することについて説明する	90.1	90.6										
		② 始祖鳥に見られる爬虫類の特徴を選択する	86.5	86.5										
2	(1)	混合物に分類されるものを選択する	28.2	28.2										
	(2)	塩化ナトリウムが電離して生じるイオンを化学式で表す	43.7	43.8										
	(3)	濾過する液を漏斗に入れる際のガラス棒の使い方を図で表す	52.2	56.4										
	(4)	有機物の特徴について答える	53.8	53.8										
	(5)	結晶が析出しない理由について説明する	37.5	38.0										
	(6)	飽和状態にある水溶液の質量パーセント濃度を求める	10.6	10.7										
3	(1)	① 停滞前線の記号を選択する	69.4	69.4										
		② 前線の構造について答える	18.2	37.9										
		③ 天気図で用いられる記号から、天気、風向、風力を読み取る	47.2	65.5										
		④ 風の特徴から高気圧の位置とその高気圧を構成する気団の特徴について答える	35.8	45.1										
	(2)	つゆという名称を答え、梅雨前線が消滅する前に北上する理由について説明する	30.8	57.2										
4	(1)	① 斜面上の台車に働く重力の大きさを答える	79.1	79.1										
		② 斜面上の台車に働く斜面方向の下向きの力を矢印で表す	18.2	18.5										
		③ 斜面の傾きを大きくすると小さくなる力を選択する	42.2	42.2										
	(2)	実験に使用したおもりの質量を求める	4.6	4.6										
	(3)	X Y 台車に働く糸が引く力の合力と斜面方向の下向きの力との関係について答える	72.3	72.3										
		Z 角度をもって働く2力の合力の大きさと2力の間の角度との関係について答える	58.4	58.4										
5	(1)	① 石灰岩やチャートの層が堆積した当時の場所を選択する	43.7	43.7										
		② 石灰岩とチャートを見分ける方法について説明する	63.1	63.5										
	(2)	① モデル実験におけるゴム膜の役割について正しいものを選択する	62.1	62.1										
		② 肺が膨らんだり縮んだりする理由をモデル実験の結果と関連付けて答える	69.4	69.5										
		③ 細胞で行われる呼吸について答える	16.8	16.8										
6	(1)	① 金属に共通する性質を選択する	49.3	49.3										
		② 物質の密度を求める	68.5	68.8										
	(2)	① 電圧計をつないだ並列回路を回路図で表す	19.9	26.0										
		② 電流が流れる道筋を変化させたときの電力量の大きさの違いを求める	39.3	39.3										
		③ タコあし配線が危険な理由について説明する	39.8	40.2										

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表(理科)

年度 段階	令和6年度	令和5年度
90～100	1.9	7.1
80～89	5.6	13.4
70～79	11.4	15.4
60～69	15.5	16.0
50～59	18.0	14.8
40～49	17.0	12.9
30～39	16.0	11.7
20～29	9.7	6.3
10～19	4.1	2.0
0～9	0.8	0.4
計	100.0	100.0
平均点	51.9	59.3
標準偏差	18.7	21.4



3 現状の分析

- ① 今年度の得点分布は、昨年度と比べ、70点以上の割合が17.0ポイント減少し、39点未満の割合が10.2ポイント増加している。
- ② 観点別の完全正答率は、「知識・技能」が52.8%、「思考・判断・表現」が44.7%である。基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得が図られているとともに、科学的に探究する活動を重視した授業づくりが行われている成果と言える。
- ③ 領域別の完全正答率は、生物的領域が66.3%、地学的領域が44.0%、化学的領域が43.0%、物理的領域は41.5%である。生物的領域の完全正答率が比較的高かった。
- ④ 大問1(4)の未知の脊椎動物を分類する問題では、完全正答率が38.3%である。特徴の中で分類の基準として何を優先すべきかを判断する力が十分とは言えない。
- ⑤ 大問4(1)③の斜面の傾きを大きくすると小さくなる力を選択する問題では、完全正答率が42.2%である。斜面の傾きの変化と、このことによる力の大きさの変化とを関係付けた理解が十分とは言えない。

4 授業において取り組むべきこと

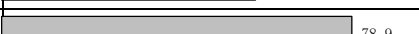
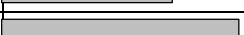
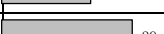
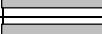
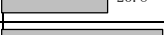
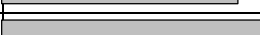
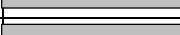
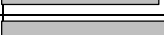
【ポイント】科学的に探究する力を育成するために

- ・身に付けた知識及び技能を活用して課題を解決する学習活動の充実を図る。
- ・より妥当な考えをつくりだし、表現する学習活動の充実を図る。

- ① 大問1(4)のように、特徴を基にして未知の生物を分類できるようにするためには、共通点や相違点に基づいて生物を分類できることを見いだして理解することが必要である。その際、分類表や検索表などを作成し、その表を用いて未知の生物を分類するなど、学習で得た知識及び技能を活用して課題を解決する学習活動の充実を図ることが大切である。
- ② 大問3(1)④、大問4(1)③のように、観察、実験の結果を基に、変化とそれに関わる要因とを関係付けて理解することができるようにするためには、観察、実験を行い、その結果を分析して解釈し、規則性を見いだす必要がある。その際、結果を図、表、グラフなどの多様な形式で表したり、考察した内容について話し合い、検討する場を設定したりするなど、より妥当な考えをつくりだし、表現する学習活動の充実を図ることが大切である。

英 語

1 小問別の完全正答率と得点率

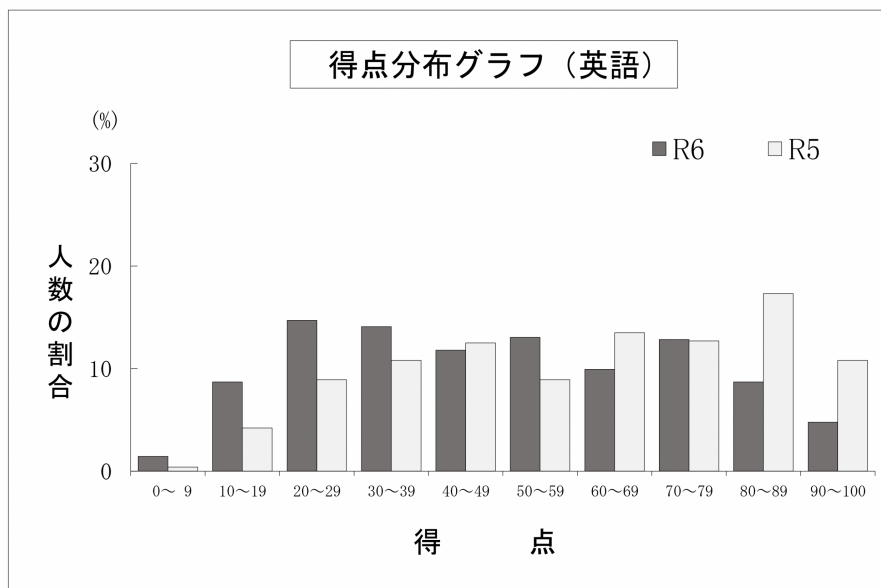
大問	小問	内 容	完全正答率 (%)	得点率 (%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1	(1)	① 会話を聞いて要点を聞き取る	73.3	 73.3										
		② 会話を聞いて要点を聞き取る	89.2	 89.2										
	(2)	① 会話を聞いて適切に回答する	51.6	 51.6										
		② 会話を聞いて適切に回答する	60.7	 60.7										
		③ 会話を聞いて適切に回答する	85.3	 85.3										
	(3)	質問 会話を聞いて概要を適切に聞き取る	92.5	 92.5										
		写真 会話を聞いて要点を適切に聞き取る	75.2	 75.2										
	(4)	① スピーチを聞いて概要を適切に聞き取る	35.2	 35.2										
		② スピーチを聞いて要点を適切に聞き取る	60.0	 60.0										
		③ スピーチを聞いて要点を適切に聞き取る	71.8	 71.8										
2	(1)	① 文脈に応じて語形を変化させる (例) 現在分詞形 living	24.4	 24.4										
		② 文脈に応じて語形を変化させる (例) 比較級 cooler	57.1	 57.1										
		③ 文脈に応じて語形を変化させる (例) 過去形 bought	78.9	 78.9										
	(2)	① 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	50.5	 51.5										
		② 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	38.3	 38.4										
		③ 必要な2語を加え、正しい語順で英文を完成させる	52.2	 53.4										
3	(1)	① 条件に合う表現を書く (例) There were	9.7	 12.2										
		② 条件に合う表現を書く (例) necessary for	17.6	 20.0										
		③ 条件に合う表現を書く (例) what	29.2	 29.4										
		④ 条件に合う表現を書く (例) to see	23.2	 23.8										
	(2)	条件に応じて、英語で質問する	26.3	 36.2										
4	(1)	① 内容を正確に読み取り、質問に答える	73.5	 73.5										
		② 内容を正確に読み取り、質問に答える	53.2	 53.2										
		③ 内容を正確に読み取り、適語を選ぶ	59.6	 59.6										
		④ 内容を正確に読み取り、表現を選ぶ	43.1	 43.1										
	(2)	自分の意見を、理由と具体例を用いて主張する	4.8	 35.9										
5	(1)	① 段落の要点を捉え、英語の質問に答える	41.2	 41.2										
		② 段落の要点を捉え、英語の質問に答える	51.8	 51.8										
		③ 段落の要点を捉え、英語の質問に答える	65.0	 65.0										
		④ 段落の要点を捉え、英語の質問に答える	57.1	 57.1										
	(2)	① 段落の概要を捉える	35.4	 35.4										
		② 文章の要点を捉え、内容を日本語で説明する	17.4	 39.6										
		③ 本文の内容から語句の意味を捉える	47.6	 47.6										
		④エ 本文の概要を捉え、内容を理解している	44.9	 44.9										
		④オ 本文の概要を捉え、内容を理解している	72.7	 72.7										
		⑤ 本文の概要を捉え、内容を理解している	48.4	 48.4										

※得点率は、部分点を含めた得点の割合。

2 得点分布

得点分布表（英語）

年度 段階	令和6年度	令和5年度
90～100	4.8	10.8
80～89	8.7	17.3
70～79	12.8	12.7
60～69	9.9	13.5
50～59	13.0	8.9
40～49	11.8	12.5
30～39	14.1	10.8
20～29	14.7	8.9
10～19	8.7	4.2
0～9	1.5	0.4
計	100.0	100.0
平均点	49.9	60.1
標準偏差	23.7	23.8



3 現状の分析

平均点は49.9点であった。大問1のリスニングは例年通り、正答率が高かった。聞くことの指導に関する成果が見られた。一方で、大問3は、完全正答率と得点率との間に差があり、言語活動において、言語材料を適切に活用して思考・判断する指導の充実が求められる。また、簡単な語句や基本的な表現の活用に課題が見られた。日頃の授業において、「書くこと」についての指導の充実が求められる。

- ① 大問1における完全正答率は69.5%であった。「聞くこと」の資質・能力の向上が顕著であった。しかし、聞いた内容の概要を捉えることにはまだ改善の余地がある。
- ② 大問2における文法問題の得点率は50.1%であった。文脈を考慮した語形変化の問題や、適切な語句を補って英文を完成させる問題における正答率が低かった。日頃の授業での「文法と語彙の統合的な指導」が求められる。
- ③ 大問3では、メモを見ながら英文を完成させ発表する問題の得点率が21.4%と低く、既習の文法事項をどの場面でどのように活用するのかに課題が見られた。適切な語彙の使用に重点を置いた指導が必要である。
- ④ 大問4では、相手の主張を捉え、要点を理解する問題の得点率が57.3%と高かった。英作文においては、意見表明時の論理的な構成や適切な語彙の使用に重点を置いた指導が必要である。
- ⑤ 大問5では、英文読解と情報の抽出に関する問題での得点率が50.4%であった。特に、英文の要点や主旨の把握に関する問題での理解が深まっている。しかし、英文から必要な情報を選び出し、それに基づいて適切に日本語で表現することについての向上が今後の課題である。

4 授業において取り組むべきこと

【ポイント】・言語活動を通して、正しく語彙と文法事項を活用し、知識・技能の定着を図る。
・生徒が目的等に応じて既習の知識・技能を自ら選択し、活用する場面を設定する。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、具体的な目的や場面、状況等に応じて、既習の語彙や文法を実際のコミュニケーションにおいて活用し表現させることが重要である。ペアワークやグループディスカッションを通じて、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、生徒が自然に語彙と文法を用いることを促していくことが重要である。
- ② 生徒が主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立て、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。また、生徒が言語表現を自ら選択する機会の充実を図り、深い学びにつなげていくことが求められる。